

**◆1月17日 仏エンギー社子会社が、天然ガス供給中断でソナトラックを非難**

フランスのエンギー（Engie=旧 GDF スエズ）の子会社でガス小売りの GRT ガスは、先週ソナトラックがフランスへの天然ガス輸送を中止したと非難している。1月17日 GRT ガスの幹部トゥルベ氏（Thierry Trouvé）はプレス会見で、フランス向けの液化タンカーが何隻もキャンセルされたと言った。ソナトラック側は、この輸出停止は、フランス側が、寒波等でのガス需要増大を受け、すでに今年のクォータを消費尽くしたためであり、アルジェリア側は契約に違反していないと主張している。（1月21日 El Watan 紙等）

**◆1月18日 住宅大臣の代行に商務大臣を任命**

ブーテフリカ大統領は、10日ほど前からフランスで入院加療しているバクティベライブ住宅大臣（Bakhtibelaïb）の代行に、アブデルマジド・テブム商務大臣（Abdelmadjid Tebboune）を任命した。大統領は、商務大臣の正式の後任を任命するのは、次の内閣改造の機会にと考えているとみられる。（1月19日 Liberté 紙等）

**◆東部地域で大雪、広範囲で通行止めや村落孤立**

東部の諸県では、1月12日頃から大規模な積雪に見舞われている。ティジウズ県の山間部では、標高800メートルくらいの地点で積雪が80～100センチに達し、また、国道15号線・12号線などが通行止めとなった。ブイラ県でも、一番酷い西端の地域で40センチくらいの積雪となり、1月17日東西高速道路で一時通行止めの規制が敷かれた。同県では孤立する村落もあり、一時数千人が村落から出られなくなった。影響を受けている県では、1月12日のメデア県を皮切りに、次々に災害対策本部が設置された。（1月19日アルジェリア国内諸紙）

**◆ソナトラック総裁、英誌に探鉱・石油精製等の中期計画を語る**

オックスフォード・ビジネス・グループ（Oxford Business Group）の2016年アルジェリア・レポートに掲載されたインタビューの中で、ソナトラックのアミン・マズージ総裁（Amine Mazouzi）は、次のように述べた。同社の2016年の鉱床発見は32カ所だった（2015年は22カ所）。油価は低迷しているが、ソナトラックは国内・海外両方で、探鉱分野に今後5年で700億ドル以上の投資を計画している。これらの投資は自己資金で賄うが、保有する油田の埋蔵量を拡大することにより、安定供給へとつなげ、輸出市場でのアルジェリアへの信用を高めることが目的である。石油化学分野のプロジェクトでは海外の投資パートナーを募る。石油精製部門では、ソナトラックは今3カ所の製油所の建設プロジェクトを進めており、一つ目は2020年生産開始を見込んでいる。石油精製品の生産は既に増えつつあり、2016年は前年比で100万トン増産となった。そのため、例えばガソリン・ディーゼル油の輸入は前年比で7100万ドル減少した。（1月19日 APS）

**◆建設会社グループ・ピューマの2カ所目のモルタル工場完成**

ハスナウイ・グループの子会社グループ・ピューマ・アルジェリー (Groupo Puma Algérie) の2カ所目のモルタル工場がコンスタンチヌ県エル・ヘルブ市 (El Khroub) に完成した。同工場はスペインのベデテック (Bedetec) 製の生産機械を導入し、ほぼ全ラインがオートマチックで操業され、生産規模は年24万トンを見込んでいる。ピューマの幹部によると、同工場の生産開始によってアルジェリアは今まで輸入していたモルタルの約70～75%を削減でき、さらに、2018年完成を目指している3カ所目の工場が完成すれば輸出化もできる見込みだという。(1月24日 El Watan 紙等)

#### ◆1月23日 ティフラレ社、米国 AIAG と合併設立

アルジェリアの乳製品企業ティフラレ (Tifralait) と米国の AIAG (American International Agriculture Group) は、合併企業設立の契約に調印した。調印式にはアルジェリア政府から農林漁業大臣が臨席した。同合併企業は、アドラル県の約25,000ヘクタールの敷地で複数の農業・酪農・畜産プロジェクトを展開する (ジャガイモ等野菜、肥料、穀物類、食肉、酪農と、それらの加工品)。生産目標は、牛乳1億9000万リットル/年、食肉2万トン/年、等とされており、雇用創出1500人を見込んでいる。(1月23日 El Watan 紙等)

#### ◆1月25日 2016年汚職度番付を発表

国際 NGO トランスペレンシー・インターナショナル (Transparency International) が毎年発表している各国政府の「清廉度」番付によると、アルジェリアは100点満点中34点で108番目にランクされた。これはエジプト・エチオピア・コートジボワール・ギアナと同点同位。マグレブ地域では、チュニジアが75位、モロッコが90位だった。(1月26日 Quotidien d'Oran 紙等)

#### ◆1月25日 北部広い範囲で悪天候、各地で道路水没等の被害

憲兵隊の発表によると、前日からの豪雨により、北部の広い範囲で道路が水没する等の被害が相次いだ。影響を受けた県の数は16に及んだが、トレムセンからティジウズやブイーラを結ぶ国道14号線と周辺の県道の被害が酷かった。(1月26日 Quotidien d'Oran 紙等)

#### ◆1月25日 法務大臣、「電子手錠」の対象範囲拡大の考え

タイエブ・ルウ法務大臣は国会で、今後司法関係の法改正を行い、「電子手錠」 (Bracelet électronique) を課すことのできる対象を拡大し、裁判の終わった被告人にも導入できるようにする方針だと語った。アルジェリアでは、既に「予防拘束」の代わりに電子手錠が導入されている。(1月26日 Quotidien d'Oran 紙等)

#### ◆1月25日 コンスタンチヌ県で大規模な水道修理

コンスタンチヌ県の水道局が1月25日発表したところによると、同県のコンスタンチヌ市やアイン・スマラ市等5つの地域で1月1日から21日までの期間、水道の給水管の一

齊点検と修理が行われた。この作業で 200 カ所の漏水が発見された修理された。同県で現在 24 時間の給水が確立しているのは県全体の 77%に留まっているが、100%にまで改善するには 1 日 20 万立方メートルの水が足りないという。(1月 26 日 Quotidien d'Oran 紙等)

#### ◆1月 26 日 アフリカ連合リビア支援会議、大統領の代わりにセラル首相が出席

大統領府は、ブーテフリカ大統領は、1月 27 日からコンゴ共和国で開かれるアフリカ連合のリビア支援会議には、セラル首相を代理として出席させる決定をしたと発表した。同首相には、マグレブ・アフリカ・アラブ連合担当大臣のメサヘル氏が同行する。(1月 26 日エル・ムジャヒド紙等)

#### ◆1月 30 日 モロッコが 35 年ぶりにアフリカ連盟復帰

アディスアベバで開催されたアフリカ連合 (AU) の第 28 回サミットで、加盟 55 カ国はモロッコの加盟申請を承認した。モロッコは、前国王ハッサン 2 世の時代、AU の前身のアフリカ統一機構が 1982 年にサハラ・アラブ共和国の加盟を承認した際、これに抗議して同機構を脱退していた。翌日 31 日のサミット閉会式では、モロッコ現国王ムハンマド 6 世が演説を行った。なお、同国王は、この後、南スーダンやガボンなどアフリカ諸国を訪問したが、訪問先の国家元首らとの会談では西サハラ問題でのモロッコへの支持を働きかけた。(1月 31 日ル・モンド紙、2月 2 日 Jeune Afrique 誌等)

#### ◆独立戦争中の仏軍の対人地雷、第 2 期除去作業終了

アルジェリア国軍のブアレム・マディ (Boualem Madi) 将軍が先週発表したところによると、独立戦争中にフランス軍がモロッコとの国境に仕掛けた対人地雷約 900 万個 (8,854,849 個) の全処理が終わった。地雷除去は、独立後順次作業が進められ、1988 年までに、その大部分が取り除かれ後一旦中断し、2004 年から第二期作業が新たに開始されていた。フランス側は、この第二期が始まった後、2007 年になってようやく地雷配置地図をアルジェリア側に引き渡したが、長年の間にほとんどは風や雨で流され元の場所にはなかった。対人地雷除去に取り組む国際 NGO によると、アルジェリアでこの仏軍が残した地雷による犠牲者は 7000 人に上るといふ。最後の犠牲者は 2011 年の一人で、子供だった。一方、1990 年代の対テロ戦争時の地雷による死傷者は、まだ出続けている。(1月 30 日仏 La Croix 紙)

#### ◆2月 3 日 ブーテフリカ大統領、5 月の国会選挙に向けた大統領令に署名

大統領府の発表によると、ブーテフリカ大統領は、5 月 4 日に予定されている下院選挙 (現憲法下で 5 回目) に関し、投票者名簿の臨時更新を命じる大統領令に署名した。更新作業は 2 月 8 日から 22 日まで行われる。なお、選挙キャンペーンは 4 月 9 日から 30 日までの期間に展開される予定。(2月 9 日 El Moujahid 紙等)

#### ◆2月 5 日 BMW 工場の建設開始 2017 年第 1 四半期の見込み、とモスタガネム県知

**事**

モスタガネム県知事のアブデルワヒド・テマール氏は記者会見で、同県で計画中の BMW のアSEMBリー工場は、書類審査や調査の準備段階がほぼ終了し、本年第 1 四半期中に工事が着工される見込みだと語った。本プロジェクトは BMW とそのアルジェリアでの販売代理店 LMW (Luxury Motor Works) の合弁事業。LMW はアルジェリアのメフリ社 (Mehri) 51%、UAE のアブダビ・モーターズ (Abu Dhabi Motors) 49% の合弁企業。BMW 他ドイツ車のアルジェリアでの販売は、この数年現地代理店の交代などで中断している。(2月7日 (2月9日アルジェリア La Tribune 紙等))

**◆アフリカ 2 番目の規模となるエル・ハムダニア港プロジェクトに政府の認可**

このほど、完成すればモロッコのタンジェ・メッド港に次いでアフリカで 2 番目の規模となるエル・ハムダニア港の建設計画に当局から許可が下りた。同プロジェクトには港建設の他、工業地区整備も付随し、建設コストは 35 億ドルに上る。着工は 2017 年 3 月だが、一つ目の埠頭が完成し引き渡されるのは 4 年後の 2021 年と計画されている。同港は最終的には 23 の埠頭が整備される。計画上の年間の貨物取扱量は、6,300 万 EVP (コンテナの荷揚げ量を測る単位) とタンジェ・メッド港の 900 万 EVP を大きく上回っている。投資費用は、アルジェリア港湾当局の予算の他、BAD (アフリカ開発銀行) からの融資でもまかなわれる。(2月9日アルジェリア La Tribune 紙等)

**◆2月13日 フランスのマクロン経済相がアルジェリアを訪問、発言が波紋を呼ぶ**

2月13日～14日の2日間、エマニュエル・マクロン経済相 (Emmanuel Macron) がアルジェリアを訪れ、政府要人と会談し、また現地メディアの取材に応じた。5月のフランス大統領選挙に当たり、社会党からの候補者指名を獲得するため、外交面での評判獲得を狙ったものと見られている。同経済相は、アルジェリアの民放エシヨルク・ニュースの取材の中で、フランスによるアルジェリアの植民地支配に関し、「植民地化は人道に対する犯罪である」と断言した。この発言は、フランスのメディアで大きな反響をもって取り上げられた。同経済相は、2016年11月には、「確かにアルジェリアでは拷問が行われたが、国家の形成・富の蓄積、中産階級の台頭等もあった。文明化と野蛮の両面がある。」と発言して、批判をかったばかりである。(2月15日～16日フランス各紙)

**◆2016年不正送金・資金移転は対前年比で減少**

税関局長代行のマフムド・アウディアル氏 (Mahmoud Aoudial) が明らかにしたところによると、アルジェリア税関が把握した 2016 年の不正送金・資金移転は 87 件、合計 7200 万ドルで、前年比では大きく減少した (2015 年 : 140 件、5470 万ドル)。手口としては、輸入業者が輸入金額を税関へ過剰申告するなどが多かったと言う。(2月14日アルジェリア La Tribune 紙等)

**◆国軍がブイラ県での大規模なテロリスト掃討作戦続行、軍側に犠牲者も**

2月15日アルジェリア国防省はコミュニケで、アルジェの南東約125キロのブイラ県でのテロリスト掃討作戦において5名を射殺したと発表した。AFPがアルジェリア当局の公式発表からまとめた数字によると、同県で軍が殺害したテロリストは本年これまでに12名に達する。同県での前年2016年一年間の掃討作戦の成果は、殺害125名、逮捕225名だった。国防省はさらに2月17日、同県のエル・アジバ市(El-Adjiba)でテロリストのアジトを襲撃し9名を殺害、武器を押収したとのコミュニケを発表した。しかし、El Watan紙が軍情報筋の話として伝えたところによると、このブイラ県のエル・アジバ市他での作戦では軍兵士7人が死亡、10名が負傷したという。(2月15日フィガロ紙、2月17日Liberté紙、2月18日El Watan紙)

**◆セラル首相、閣僚にFacebookやTweeterのアカウント開設を指示**

セラル首相は閣議で全閣僚にFacebookやTweeterにアカウントを設けて情報発信を行うよう指示を出した。しかし、10日経っても追随する閣僚は出ていないとのこと。首相自身とコミュニケーション大臣はTweeterにアカウントを持っている。(2月17日Liberté紙等)

**◆マグレブ連合28周年に際しモロッコ国王からブーテフリカ大統領にメッセージ**

ブーテフリカ大統領は、モロッコのムハンマド6世国王から、マグレブ連合28周年を記念してという名目のメッセージを受け取った。内容は、マグレブや他の地域が抱える問題を解決するため、マグレブ連合を地域連合として再活性化し活用すべきと訴えるものであった。なお、1月30日のモロッコのアフリカ連合復帰については触れられていなかったという。(2月18日El Watan紙等)

**◆2016年のメッカ巡礼枠は以前の水準を回復**

2月16日アルジェリア宗教省は、2016年のメッカ巡礼に当たってのアルジェリア人受け入れ枠は、一昨年までと同水準の3万6千人となったと発表した。同日アルジェリアのモハメッド・アイサ宗教大臣(Mohamed Aissa)とサウジアラビアのターヒル・ベンティン宗教大臣(Taher Benthien)の会談で決まったもの。2015年は、将棋倒しの事故防止等の理由で2万8800人に削減されていた。(2月18日El Watan紙等)

**◆2月20日 メルケル首相のアルジェリア訪問が直前に中止**

アルジェリア大統領府は、ドイツのメルケル首相のアルジェリア訪問は、ブーテフリカ大統領が気管支炎の悪化により会談不能となったため、急遽中止されたと発表した。ドイツ側にはメルケル首相の政府専用機の離陸1時間前に伝えられたと言う。同首相はブーテフリカ大統領の招待を受け2月20日から二日間アルジェリアを訪れる予定であった。(2月20日ル・モンド紙、仏ラジオ局RFI等)